観光ポスター どれが一番？

まっかり温泉で行われている観光ポスター人気投票

真狩村で人気投票

候補27点 温泉などに展示

【真狩】村は十三年ぶりに「夢ある村の観光ポスターづくり」で、村内の観光客誘致を図るためのポスターを展示、人気投票を実施している。

村は観光ポスター作成に参加した公募の二十三点と、村内の「まっかり温泉」「羊蹄山麓ラフラフ」「真狩村ふるさとセンター」で撮影作成した三点を展示、「人気投票」を実施中。作品を選び、「応援」を呼びかけている。

村産業課は「応援投票から多くの人にかかわってもらうことで『真狩村を好きになる』ことを目的にしたい。家族にも投票を」と呼びかけている。

ポスターは8月初旬に五百枚を予定。現在は縮小版のポスターが展示されている。（後藤千穂通信員）

2007年8月8日北海道新聞

羊蹄山麓で格闘技を

真狩出身のプロ　蔵田さん

【真狩】村出身のプロ格闘家、蔵田圭介さん（29）が実家の酒店内に総合格闘道場「アライブ真狩蔵田酒店支部」をオープンした。「羊蹄山麓にも格闘技の二十人はある。定着させてもっと広い場所に道場を移したい」と意気込む。（内藤泉大）

酒屋を改修して作った格闘技場で指導する蔵田さん（右）

実家の酒店に道場開設

初心者も丁寧に指導

蔵田さんは真狩高卒業後に就職で移った名古屋で、プロレスが好きが高じて格闘技を始めた。二〇〇二年にプロ格闘家としてデビューして以来九戦、四勝五敗で、今も現役として「リング」に立つ。

昨夏に「地元で教えたい」と真狩に戻って道場設置を計画。配達中心となっていた家の酒屋店舗に目をつけて両親を説得し、店舗の四分の三にあたる約三十平方メートルを半年かけて整理し、畳マットを敷き詰めて道場を作った。

道場は八月初旬にオープン。酒屋は店舗の残り部分でビジネスや酒を並べて営業している。道場と店舗には仕切りはなく、訪れた客は道場付設のユニークな店内に驚くという。

キックボクシング、柔術などの格闘技のほか、女性に人気の新陰代謝を促進する運動「ヨラティス」も教える。近隣町村から通う二十～三十代の男女約十人に蔵田さんが「初心者も丁寧に指導」。生徒のほとんどはあたる約三十平方メートルを半年かけて整理し、畳マットを敷き詰めて道場を作った。

「道場が老若男女のコミュニケーションの場になれば。少しでも興味があれば、体験してほしい」と呼びかける。

問い合わせは蔵田さん☎090・7028・9261へ。

2007年9月12日北海道新聞

サケ調理ドキドキ

親子ら70人 真狩で教室

【真狩】石狩・後志管内漁業士会（松尾英一会長）主催の「親子水産教室」がこのほど村公民館で行われ、村内の小学生や父母約七十人が参加した。（板敷千穂通信員）

サケの調理に挑戦する小学生

同教室は、魚に対する興味や漁業に対する知識を深めてもらおう、と毎年開かれ、漁法の紹介や調理講習を行っている。

今回は「畑と海の交流」がテーマ。開会式の後、サケ定置網漁など漁具や漁法が紹介された。調理講習では、漁業士の指導を受けながら、親子でサケを二匹さばき、イクラを取り出して、しょうゆ漬けを作った。また、イカの塩辛にも挑戦した。

出来上がったサケなべ、イクラ丼、刺し身などを囲み、参加者全員で昼食。サケなべには真狩

2007年9月14日北海道新聞

真狩高校女子バレーボール部

昨年を越える全国三位に！

昨年、全国大会に初出場し、全国ベスト8という素晴らしい成績をおさめた真狩高校女子バレーボール部が、今年も昨年以上に素晴らしい成績をおさめ、八月二十日、真狩村役場を訪れて佐々木村長に結果報告をしました。

八月三日から五日にかけて、東京都世田谷区の駒沢体育館及び駒沢屋内球技場で行われた第二回全国高等学校定通制バレーボール大会に出場した真狩高校は初戦、宮城県仙台図南新城高等学校を三－〇で破ると、続く二回戦も福岡県博多青松高等学校に三－〇で勝利、昨年と同じベスト8に進出しました。

準々決勝では京都の桃山高校と対戦、第一セット二五－七、第二セット二五－二〇と連取し、昨年を越えるベスト4に進出しました。

準決勝では、昨年の準々決勝で敗れた奈良県天理高校と対戦。昨年の雪辱を果たそうと挑み第一セットを取りましたが、第二セット、第三セットと連取されてしまい、雪辱を果たすことができませんでした。

しかし、全国三位という素晴らしい成績に佐々木村長は選手たちに「本当にすごい」と賞賛をおくっていました。

また、ベスト4に残ったチームから選ばれる最優秀選手のベスト6に一年生の三駒知穂さんが選出されました。

2007年9月号広報まっかり

真狩中で初開催された「真狩ランチを食べる会」

「真狩ランチ」おいしいね

地場産品多用の給食 生産者と会食会

真狩中

【真狩】村教委は二十七日、小麦やユリ根、ジャガイモなど真狩産の食材を使った学校給食を提供する初の「真狩ランチを食べる会」を真狩中で開いた。地産地消の理解を深めるのが狙い。全校生徒八十五人が地元産者ら約三十人と一緒に、パンやシチューなどを味わった。

この夏から学校給食センターの栄養士が農家の畑を回って食材を見繕ったり、ユリ根のスイートコロッケ、赤大根やゴボウのサラダの四種類、豚などを使ったシチュー、ユリ根のスイートコーンを通常の出荷とは切り離せ、地元農協の施設で乾燥させ、地元産の出来のはかに地元のパン屋、ジャムの専門店などが協力して実現した。献立はパンを上げた。製粉後、村内のパン店「ブーランジェリー J・N」が焼きたった小麦粉を使ったパンの小麦、村内の佐々木農場が生産した小麦粉を

食の魅力アピール

真狩 村が観光ポスター作製

【真狩】食の魅力をアピールして村の観光振興を図ろうと、村は新たな観光ポスターを約十五年ぶりに作製した。観光パンフレットも約十年ぶりにリニューアルした。

ポスターは朝焼けをバックにした羊蹄山の写真を大きく使った素朴なデザインで、「景色がキレイなところは、ごはんも美味しい」のフレーズを添えた。五百枚を作製して、北海道の物産を販売する東京の拠点「どさんこプラザ」やJR札幌駅構内などに張ってPRする。

見開き式のパンフレットは、村内の飲食店の紹介を充実させたほか、パークゴルフなどのレジャー情報や温泉も盛り込んだ。一万部作り、村内の飲食店や施設のほかにも、札幌や管内市町村にも置いてもらう。

村は「食とゆったりした雰囲気が魅力で、癒やされるには絶好の場所。興味を持ってもらって、ぜひ来てほしい」と話している。（内藤景大）

真狩村が新たに作製したポスターとパンフレット

2008年4月3日北海道新聞

担い手たちの夢 ○57○

影山尚史さん（35） 真狩村

人脈広げ地域けん引

特栽など付加価値高める

「人の輪が広がっていくのが楽しい。そう出会いの大事さを実感している」後志管内真狩村の影山尚史さん（35）。若さと頼れる人柄から農家グループ代表などを務め、人脈を広げながら地域農業をけん引する。

経営では、特別栽培のバレイショや多色のユリ切り花など、付加価値の高い生産を目指している。

大学卒業後に就農。父の宏義さん（61）から経営を引き継いで8年ほどがたつ。バレイショやユリ、ダイコン、ニンジン、スイートコーン、アスパラガスなどを約11・4ヘクタールで栽培する。

「人とのつながりを大切にしたい」と影山さん

今、力を入れているのがユリ。白色の「カサブランカ」だけでなく、ピンクや黄色なども増やしている。市場で一番せりにかけられているのが品質の高さの証。

JAの真狩村花卉（かき）共選施設利用組合の組合長として対外的な対応もする。評価の高まりから、相対取引の申し込みも来ている。

リーキの生産農家でつくるグループ「真狩歩我路（ポアロ）クラブ」の代表しだ。グループの生産も務める。リーキは、村内のレストラン、マッカリーナやれ幌市内のレストランに供給。特別栽培のバレイショは地域の農家グループによる契約取引で、一定価格で販売している。

これらの品目から共通して言える経営のポイントは「同じものを作っていては生き残っていけない」ということ。道産の農産物でも流通量が少なかったり、より付加価値を高めたりすることができる品目を、経営に取り入れたいと常々考えている。

道の駅管理組合の役員も務めるなど地域活動にも積極的だ。フォンデュを地域の名物料理にしようと活動する「フォンデュの会」からも声がかかる。「多くの人と話す機会ができ、いい勉強になっている」

今後の目標は耕作面積の拡大。同時に「仕事と楽しく汗を飲むこと」と楽しみながら農業を続けていきたい考えだ。趣味はカラオケ。自宅の有線放送で最新チャートをチェックする。

2008年4月21日日本農業新聞

フラワーロードに彩りを

真狩・村づくり研究会 ユリ球根植え込み

開花を楽しみにしながら球根を植える参加者

【真狩】ユリ根生産全国一の真狩村村民で一日、道路沿いを黄色の花で彩るフラワーロードのユリ植えが行われた。

村民有志でつくる「村づくり研究会」の恒例事業。留寿都村との境界に近い道道岩内洞爺線沿いを飾る鮮やかな黄色の帯は毎年夏、観光客らを楽しませている。雨にもかかわらず、村内のほか、札幌や伊達などから約百五十人が集まった。

用意された球根は約二四万球。参加者は約二㍍にわたって球根を植え、土をかけた。順調に育つと、八月上旬に開花、一週間ほど楽しめるという。

この日はこのほか、道の駅「真狩フラワーセンター」で、北海道洞爺湖サミット開催を記念した植樹も行われた。（竹村康治）

2008年6月3日北海道新聞

料理通じ和気あいあい

真狩 男性向けに教室

巻きずしの作り方を学ぶ男性会員

【真狩】村内の老人クラブ「真鶴会」は十七日、男性会員向けの「男の料理教室」を保健福祉センターで開いた。

一人暮らしの男性会員も多いことから、事務局長の大西竹男さんと副会長の妹尾せつ子さんが中心となって企画。地元で採れた旬の食材を使い、栄養バランスの取れた献立を心がけたという。

作ったのは巻きずし、ウドとタラノメの酢みそあえ、ササダケのキムチ漬けなど八品。参加した十一人は、女性会員の手ほどきを受けながらも、慣れない包丁さばきに悪戦苦闘。

笑い声の絶えない楽しい教室となった。

初めて参加した大井幸一さん（七四）は「巻きずしは具が中心になるように巻くのが難しい」と話していた。（板敷千穂通信員）

2008年6月23日北海道新聞

雪だるまの製作準備に汗を流す真狩村職員たち＝2日午後5時10分（浜本道夫撮影）

首脳夫人 雪で歓迎

【真狩】北海道洞爺湖サミットの妻首脳夫人の面々が来訪される後志管内真狩村で二日、歓迎ムードを盛り上げるために雪だるまの製作準備が始まった。

農業地帯ならではのもてなしぶりで、同村が企画。雪は西側に隣接する山麓で集め、ビニールシート五十個に入れ、地元農協の冷凍庫に保管しておいた。この日の同村の最高気温は二六・一度。同村職員ら六人が汗をぬぐいながら、氷のように硬くなった雪一万体に成形。それを丁寧に積み上げて高さ約一・五メートルの立方

2008年7月9日北海道新聞

■ 肉質柔らか 真狩自慢の「ハーブ豚」■

あす7品そろえイベント

【真狩】村特産の「ハーブ豚」を使った料理を提供する「ハーブ豚まつり」が三十日午後四時から八時まで、まっかり温泉駐車場で開かれる。村商工会青年部が昨年初めて開催し、人気を呼んだ催しで、厳選したメニュー七品を提供する。

ハーブ豚は、村内の養豚農家「印南ファーム」が生産。出荷二カ月前からオレガノ、ナツメグなど四種類のハーブを混ぜた純植物性飼料を与え、生後六カ月で出荷する。肉質が柔らかく脂身に甘みがあるのが特徴で、札幌の飲食店のメニューにも登場している。

まつりは同青年部が企画、昨年は二時間で売り切れの料理も出るなど好評だった。

今年も部員やボランティアが自慢の料理を持ち寄って試作会を開催、まつり用の料理を選んだ。くし焼きのほか、ハム、カツサンドといった飲食店にないメニューもあり、すべて一皿五百円で提供する。野菜もできる限り地元産を使う。

青年部の大広和部長(28)は「昨年よりパワーアップしたおいしい料理を味わって」と話している。

問い合わせは真狩村商工会☎0136・45・2126へ。

(板敷千穂通信員)

30日に開かれる「ハーブ豚まつり」のポスター

2008年7月29日北海道新聞

花ユリ満開 色鮮やか

真狩のフラワーロードで

【真狩】村の夏の風物詩、フラワーロードの花ユリが見ごろを迎えた。延長約二キロに及ぶ鮮やかな黄色の帯がドライバーの目を楽しませている。

住民有志でつくる「村づくり研究会」(佐伯秀範会長)が一九九四年から整備している。今年も六月一日にボランティアら約百五十人が留寿都村との境界近くの道道沿いに球根約四万個を植えた。

今年は好天に恵まれ、開花は例年より早めで、八月二十日ごろまでが見ごろという。

近くに住む同研究会の藤本篤さん(三)は「フラワーロード越しに見る羊蹄山はこの時期の真狩ならではの景色。ぜひ見に来て」と話している。

(板敷千穂通信員)

見ごろを迎えたフラワーロード

2008年8月14日北海道新聞

自然公園の安全 地道に

真狩の仁司さん 環境省が表彰

表彰状の伝達を受ける仁司忠志さん

【真狩、倶知安】長年、環境省の自然公園指導員として活動した真狩村光の仁司忠志さん(六〇)に二十一日、同省の表彰状が伝達された。表彰は道内で三人で、後志管内は仁司さんだけ。

仁司さんは今年三月までに同村職員で、現在は公園施設管理人。通算十二年、指導員を務め、羊蹄山地区のキャンプ場や自然歩道などの環境保全などを担当。また自発的に登山道の草刈りをしたり、登山者の事故防止や安全確保を図るため、指導や情報提供を行っている。

後志支庁で宮木康二支庁長から表彰状を受け取った仁司さんは「つらいこともあったが、大きな事故がないのが何より。これからも山を見つめながら、できる限りお手伝いしていきたい」と話していた。

2008年8月23日北海道新聞

北海道洞爺湖サミット閉幕！

真狩村でも こんなことがありました

ユニークな最終名札に結ばれたキガラシ（遠方）と人々の目を楽しませました

七月七日から六日まで、洞爺湖町にて「北海道洞爺湖サミット」が開催されました。サミット開催期間前から交通規制や警戒警備などが行われ、ご協力をお願いしましたが、ご協力をありがとうございました。皆さんのご協力で、花壇づくりなど花と緑でいっぱいのお迎えができ、村を訪れるたくさんの方に楽しんでいただくことができました。

村では、「北のまるしえ」（実行委員会主催）が催され、レストランマックガリーナ、配信プログラムの総理夫人主催昼食会が開かれるなど、関連行事が行われました。サミット前後に村内であった出来事を紹介します。

ギャンドルがトド…特別賞に選ばれました

（電気を消してキャンドルの光の中で時間を過ごし、地球の未来に思いをはせるガイアナイト（サミット初日の七月七日夜）を前に、七月三日に小学校前の道路沿いに設置し藤の部分が丸く成形され、最後はきゅうりやズッキーニなどの野菜で自作ロボ。などの飾りつけを小学生が中心となって行いました。

首脳夫人が通過する時間に小学生はいっせいに集まり、お出迎えです。皆で国旗を振ったり、声援を送ったり、首脳夫人はじめ関係者の皆さんにも、歓迎の気持ちが伝わったことでしょう！

村の特産である花ユリの花粉を入れた黄色のキャンドルを使った茶色のキャンドルは、真狩高校生の発案で、昨年から作られているものです。

黄色のキャンドルでハートをかたどり、その中に茶色のキャンドルが「PEACE」と並べ、「環境に優しい村に」との思いを込めて火を灯しました。

北海道洞爺湖サミット通訳会議が「ガイアナイト」の一環として募集したキャンドルアートは、全国の小学生から八十五組の応募があり、この中から特別賞に、この「チーム真狩」の作品「LOVE&PEACE」が選ばれました。

七月三十日に北海道庁で行われた表彰式には、浦一郎さん（真狩小三年）が代表して出席し、表彰を受けました。

日本郵便真狩郵配センターにエコカー登場

今回のサミットでは、留寿都村に国際メディアセンターが設置され、所属する日本郵便真狩集配センターから郵便物等が配達されていました。環境問題を主要テーマとしたサミットということもあり、サミット期間前からエコカーとして、（電気自動車三台、ハイブリッドカー二台）が導入され、皆さんも目にする機会があったのではないでしょうか。

電気自動車のうち、ミツビシ・i-MiEVは、100Vの家庭用電源を使用すると約十四時間で充電でき、エンジン音がとても静か　加速もスムーズで坂道なども楽に走行できるということでした。

この配置されていた期間、まっかり保育所や真狩小学校ではエコカーの見学をし、子どもたちは貴重な機会にとても喜んでいました。

北のまるしえ…

七月五～六日の二日間、まっかり温泉駐車場に市場形式で、北のまるしえが催され、後志管内の美味しい野菜や果物、魚介類、加工品や花が並び、二日で約三千人が来場し賑わいを見せていました（「マルシエ」はフランス語で「市場」のことです）。

初日のオープニングセレモニーには、高橋はるみ知事や

エコカー（電気自動車）と小学生

「LOVE&PEACE」特別賞に選ばれました！

ユリ園周辺の手入れ

四月から貯蔵していたコンテナの雪を、教委職員が三十m四方、四四個に切り出し、ブロックを積み上げていき、高さ約二mの雪だるまに仕上がりました。

八日の朝、雪だるまは真狩小学校前の道路沿いに設置され、最後はきゅうりやズッキーニなどの野菜で自作ロボ。などの飾りつけを小学生が中心となって行いました。

首脳夫人が通過する時間に小学生はいっせいに集まり、お出迎えです。皆で国旗を振ったり、声援を送ったり、首脳夫人はじめ関係者の皆さんにも、歓迎の気持ちが伝わったことでしょう！

サミット期間中やその前後は、日常生活では見ることのできないもの、体験できない空間が真狩村にも生まれていました。いろいろな出来事がありましたが、皆さんはサミットを身近に感じることができたでしょうか。

雪だるまで…首脳夫人を歓迎

サミット期間中に、マックガリーナを訪れる首脳夫人を「雪だるま」で歓迎するプロジェクトも進められました。

戦中外務事務次官が来場し、北海道や後志の魅力を発信し、洞爺湖できることを嬉しく思いますとの挨拶がありました。

村内からは、揚げたてのゆり根スイートコロッケ　パン、ジャムやクレープ　鉢花などが出店されました。

併設されたフードコートでは、レストランマックガリーナとニセコ農産協加工研究サークル（「ゆうこば」）によるメニューが提供され、旬の野菜をふんだんに使った料理をたくさんの人が堪能していました。メニューによっては早々に品切れになる人気のものもあったようです。

村内の方もたくさん来場して楽しんでいた様子がテレビや新聞などでも報道されていましたね。

夏の雪だるまで歓迎しました

野菜くだいなら（北のまるしえ）

高橋はるみ知事と（北のまるしえ）

今日からうちエコ ②電気の使用を減らそう

家庭からの二酸化炭素排出量

私たちの家庭生活からも大量のCO２が排出されていて　その量は世帯あたり年間約5300kg、1人あたりにすると約2100kgとなり　これは日本の年間ＣＯ２総排出量の約2%に相当します。そして　その中でも家電や照明の電気使用から発生するＣＯ２は、家庭からの排出量の5%を占めています（左グラフ）。電化製品の使用時間を控え、主電源を切る等の待機電力を減らすといったちょっとした心がけが大切です。

1．テレビ・パソコン
つけっ放しにはせず　使わないときは主電源を切りましょう。（基本！）

2．冷蔵庫
ものを詰め込み過ぎない、開け閉めはすばやく！

3．電気ポット
マイコン型電気ポットの年間消費電力は、冷蔵庫の年間消費電力よりも大きいというデータもあります。長時間使用しないときはプラグを抜きましょう。

4．照明器具
54Wの白熱電球と、同じ明るさに相当する12Wの電球型蛍光ランプを比べると、蛍光ランプの寿命は白熱電球の約６倍、電気代は1/4以下です。白熱電球用のソケット型に取り付けられる電球型蛍光ランプは価格は高めですが、電気代が少なくてすみます。

※待機電力（待機時消費電力）って？
電気製品を使っていないときでも消費されている電力のこと。タイマー機能付のテレビやビデオ　電子レンジも、コンセントにつながっている間は電気を使い続けています。家庭で消費する電力のうち、年間約1割が待機電力です。まずは、使用頻度の低いものから、電気プラグをコンセントから抜きましょう。スイッチ付タップを使って　タップのスイッチを切るのも有効です。

2008年8月号広報まっかり

目指せメジャーデビュー

個性派そろい ムラの宝物

ムラの宝物は、北海道農業・北海道畜産農業協同組合連合会（JA北海道中央会）、北海道農業協同組合中央会（JA北海道中央会）、北海道

園児包む特大リース　真狩

リースに入って笑顔を見せる子供たち

【真狩】まっかり保育所に、直径約二㍍三十㌢のジャンボリースが飾られ、子供たちを喜ばせている。

贈ったのは村桜川の齊藤透さん(四二)で、寄贈は三回目。自宅近くの林からマツの枝を切り出し、今年は村保健福祉センターで学童保育の子供たちと一緒に制作した。ヤナギの木で作った輪にマツの枝を巻き付け、大きな赤いリボンを付けた。

この後、リースを保育所を運んで取り付け。齊藤さんのアイデアで、子供たちが赤や白、黄色の手袋をはめて、リースの「飾り」になった。大きな輪の中にすっぽりと入った子供たちは「大きいね」と笑顔を見せていた。

リースは年々大きくなっており、齊藤さんは「来年も子供たちと一緒に作りたい」と話している。

（竹村康治）

2008年12月25日北海道新聞

ユリ花粉でキャンドル

真狩高生考案　村内で販売

【真狩】真狩高生が考案した「パレンキャンドル」が道の駅真狩フラワーセンターとまっかり温泉で販売されている。村名産のユリの花粉で黄色く色付けした廃油キャンドルで、生徒たちは念願の商品化を喜んでいる。

道の駅やまっかり温泉で販売されている真狩高生考案のユリ花粉キャンドル

一個百円で、考案した同校生活改善分会の三年生六人の手作り。村内の食堂で使った天ぷら油などをユリ花粉で黄色く色付けし、同校で栽培するシクラメンの紫色や白色の花びらを入れて固めた。

昨冬の村内のイベントで計六百個を並べたキャンドルに、改良を重ねて商品化にこぎ着けた。生徒たちは「真狩村の新しいお土産として定着してほしい」と期待している。

同校は現在、冬休みのため在庫は約七十個の限定販売だが、授業が始まる十九日から「製造」も再開される。

（内藤景大）

2009年1月7日北海道新聞

スノーモービル70台疾走

真狩で初の全道大会

【真狩】全道スノーモービル選手権真狩大会（実行委主催）が十八日、村内光のフラワーパーキング周辺の特設会場で開かれ、道内各地から参加した選手たちが白熱したレースを繰り広げた。

全道大会の村内開催は初めて。「真狩スノーモービルランド」を運営する佐伯秀範さん(四九)が二年前から誘致し、実行委員が役員ライセンスを取得するなど準備を進めてきた。大会長を務めた佐伯さんは開会式で「夢がようやくかなった。真狩の冬のイベントとして続けていきたい」とあいさつした。

開幕戦となる大会には三十六人、約七十台が出場。ジャンプ台などが設けられたコースを、雪煙を上げながら疾走した。初めてレースを見たという村内の三十代の女性は「走ると言うより飛んでいますね」と驚いていた。

第二戦は二月一日に上川管内美瑛町で行われる。（板敷千穂通信員）

迫力あるレースを展開する選手たち

2009年1月23日北海道新聞

小樽志後
OTARU・SHIRIBESHI

高齢者の活躍に拍手

「いい爺いライダー」上映　真狩

【真狩】旧振管内むかわ町穂別地区の高齢者たちが制作した映画「いい爺いライダー」の上映会と、出演者らによるトークショーが五日夜、村公民館で開かれた。

村教委の生涯学習講座の一環。映画は「田んぼdeミュージカル」シリーズの第三弾で、二〇〇六年の旧鵡川町と旧穂別町の合併を題材にした。合併に反対し暴走する「爺い」ライダーの姿を通して、地域や世代間の対立を描いており、笑いあり、涙ありのミュージカル風の作品に、会場は笑いと拍手に包まれた。

トークショーでは、脚本を担当した元町職員の斉藤征義さん(六五)が「映画を撮っていると、お年寄りたちがどんどん元気になってくる」と映画作りの〝効能〟を披露。制作委員会代表で主演の原田幸一さん(六三)は、映画の予告編が総務省から表彰されたことに触れ「やめるにやめられなくなった。命がけの映画作りです」と話し、笑いを誘った。

トークショーで映画について語る脚本の斉藤征義さん（左端）

2009年3月7日北海道新聞

祝・設立三十周年
歩みは地域とともに

三月十日、知来別地区生涯教育振興会設立三十周年記念式典及び祝賀会が、知来別児童館理セノターにおいて盛大に行われました。

知来別地区生涯教育振興会は昭和五十四年の設立以来、「心のふれあい」を通じて生涯学習や地域活性化を目指す活動に取組み、真狩村が「生涯学習の村」を宣言するきっかけとなりました。

この日の式典には約八十人が出席し、歴代の会長、事務局長に感謝状が贈られ、記念講演で、真狩シルバーバンドの演奏や余興のマジックを楽しみ、三十年間の思い出を語りあいました。

第一回フロアカーリング大会が開催されました

三月九日、高校体育館において、第一回フロアカーリング大会が開催され、小中学生から高齢者までの十三チーム四十名が参加し、白熱した試合が展開されました。

フロアカーリングのルールは簡単、と言っても、フロンカーやターゲットのコントロールが難しく、速にも左右されます。

予選は、四ブロックに分かれたリーグ戦と上位三チームによる決勝トーナメントを行い、また上位三チームの交流試合も実施されました。どの試合も接戦となり、好プレーも珍プレー!?も飛出し、真剣な眼差しと笑顔が見られました。

優勝　カーリングマスターズ
準優勝　チーム大西
第三位　The KAT-TUN Team
第四位　野球嫌会カーリングチーム

フロアカーリングにチャレンジしてみませんか?
地区や学校行事等に、教育委員が用具を持ってお伺いします。お問合せください。
毎週土曜日の高校体育館一般開放の際にも利用できますので、お試しください。

2009年4月号広報まっかり

プレミア商品券第2弾
また2日目で完売
真狩　第3弾望む声も

【真狩】村商工会(会員一会員)は3日、25%のプレミアム(割増し)付き商品券を発売した。前回販売した4月2日と同様、発売2日目で完売した。

商品券は1セット1万円分を8千円で販売し、1セット5セットを用意された。発売翌日に完売。また1世帯5セットまで購入できる。3日が第2弾を望む村民の声は販売開始の午前9時前から住民が続々と村商工会を訪れ、1時間で約半分が売れ、翌4日午前11時すぎには売れ切れた。

同様の商品券は4月前から住民が続々と村商工会を訪れ、1時間で約半分が売れ、翌4日午前11時すぎには売れ切れた。

プレミアム商品券を買い求める村民たち。発売2日で完売した

3弾を期待する声が聞かれるという。(板敷千穂通信員)

2009年8月7日北海道新聞

守った伝統 新舞姫4人
真狩「浦安の舞」

【真狩】村の無形民俗文化財になっている郷土芸能「浦安の舞」の保存会に、新しい4人の「舞姫」が誕生した。デビューは9月5日、村公民館前で開かれる「村民お祭り広場」。7月から続く練習は仕上げの段階を迎え、熱を帯びている。(板敷千穂通信員)

来月初披露へ練習に熱

初披露に向けて練習に励む4人の「舞姫」たち

浦安の舞は村内の婦人会などが受け継いできたが、後継者が少なくなり、1977年に保存会が結成された。舞姫は真狩高の女子生徒が務め、真狩神社の例大祭などで披露されてきた。

しかし、2007年から例大祭が「村民お祭り広場」(9月第1土曜日)に伴せて開かれるようになると、同高の学校祭の日程と重なり、生徒による披露ができなくなった。このため、村内の成人女性に声を掛け、新「舞姫」誕生に漕ぎ着けた。

4人は岡本牧子さん(23)、久保田愛美さん(23)、曽根晴美さん(20)。7月から毎週火曜日の夜、村公民館で約3時間の練習に励んでいる。

真狩高時代にも「舞姫」を務めていた曽根さんは「通りを流れる笛を覚えていて自分でも驚いた」と話す。指導する保存会の大西真智子さんも「みんな覚えが早い」と目を細め、一つ一つの動きを時間をかけてチェック「晴れ舞台に備えている。

浦安の舞　「浦安」は「心の平穏」という意味。1940年(昭和15年)に宮内庁の楽長が国の安泰を願って創作した神楽舞で、全国の神社に伝わる。扇と鈴を使った動作があり、女性4人が舞う。楽器は大鼓や笛など。

2009年8月14日北海道新聞

初めての羊蹄山頂で充実感
小中生らが登山会

【真狩】村内の小中学生を対象とした登山会「チャレンジ!羊蹄山」が9月26日開かれ、参加者は真狩コース登山口から標高1898㍍の頂上を目指した。

小学校の登山遠足が9年前になくなり、羊蹄山に登らないまま大人になる子どもが増えたため、住民団体「まっかりアグリパーク」(小川治代表)が「羊蹄山に登る機会を」と2007年から主催している。

今年は3年生以上の小学生17人と中学生1人、登山ガイド2人など計33人が参加。小学生の大半が羊蹄山登山は初めてだったが、途中休憩を取りながら、約4時間で全員が頂上へ到着した。

山頂付近は雲がかかり、眺めはあまり良くなかったが、真狩の街並みを見下ろすことができた子どもたちは満足、うな様子だった。

小川代表は「羊蹄山に登った達成感や充実感を将来の糧としてほしい」と話していた。(板敷千穂通信員)

羊蹄山の真狩ピーク(標高1860㍍)で写真に納まる参加者

2009年9月26日北海道新聞